

議事概要

- 会 議 名：第5回大野城市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画専門会議
- 日 時：令和8年8月18日（火）10：00～11：15
- 場 所：大野城市役所 本館2階212会議室
- 出席者：委員10名中 出席10名 事務局5名

〔出席職員〕

都市計画課	課 長	小林 徹（事務局）
都市計画担当	係 長	山口 桜子（事務局）
都市計画担当	担 当	伊藤 優作（事務局）
都市計画担当	担 当	池上 貴紀（事務局）
危機管理課	課 長	山崎 克博（事務局）

〔傍 聴 人〕 なし

● 会議次第

1. 開会
2. 立地適正化計画の策定について
 - （1）第4章（誘導区域及び誘導施設）
 - （2）第5章（誘導施策）
 - （3）第6章（防災指針）
 - （4）第7章（定量的な目標値と評価方法）
3. 都市計画マスタープランについて
 - （1）第2次都市計画マスタープランの期間延長について
4. その他
5. 閉会

● 会議概要：下記のとおり

2. 立地適正化計画の策定について

（1）第4章（誘導区域及び誘導施設）

（事務局より説明）

【委員からの主な意見等】

- ・ 誘導施設の設定の表の下に「（ ）内は既存の誘導施設であり、誘導する施設のイメ

ージになります」とあるが、イメージではなく、誘導する施設の具体例の方が適切ではないか。

- ・ 総合公園と街区公園など大きさが全然違う施設を分散型施設で一つにまとめて良いのかは疑問である。公園は都市計画上で定義があったはずなので、確認して分類してみてもどうか。

(2) 第5章（誘導施策）

（事務局より説明）

【委員からの主な意見等】

- ・ 都市環境・景観に関する施策に「大野城市らしいやすらぎ空間の形成」の「大野城市らしい」は曖昧な表現であり、もう一工夫が必要であると考えます。
- ・ 各地区にあるにぎわいづくりの施策の中のパートナーシップによるまちづくりの推進の文面について、各地区で同じ内容が記載されているため、それぞれの地区コミュニティを中心としたとか、他の4つの地区との連携をとりながら、その地区のコミュニティを中心としてなどの文言に書き換えられた方がよいのではないかと。

(3) 第6章（防災指針）

（事務局より説明）

【委員からの主な意見等】

- ・ 防災指針の目的に災害に強いまちづくりとあり、それで全てのことを表していると思われるが、レジリエンス、要するに災害が起こったとしても、すぐに元に戻すことができるという意味合いを含んだ文章にされるといいと思う。その理由は、大野城市は一番くびれたところが一番の地域のネックポイントとなっている。御笠川と警固断層があり、それにより災害が起こると大野城市は北側と南側で分断される可能性が高い。市の中央部分は壊滅的な被害を受けて、市の機能がなくなる可能性も十分想定される。そういった時にどう災害から元の状態に戻すかという、復旧となると長い話になるため、レジリエンスという言葉が一番いいのかなと思う。そういう意味合いを詰めてもらい、たとえ災害が起こったとしても、すぐに市としての機能を回復できるような、災害に強いまちづくりという表現にされておく方がいいと思われる。
- ・ 防災まちづくりに向けた課題の整理の中に、災害リスクのグラフがあるが、青黄色ピンク緑とグラフの色を変えているが地震は変わっていない。色を変える必要はないと思うので再度検討してもらいたい。
- ・ 地震のリスクのグラフについて、一番左が木造と旧耐震で、真ん中が木造、次は

旧耐震となっているが。旧耐震であることの方がリスクには一番影響するため、そこが見えるような表現に修正した方が良い。

- ・ グラフについて、すべて％で記載されているが、区によって人口が違うのではないかと思う。一見、0％近くでリスクは低いように見えて、実際は一定の世帯数に耐震性が低いという場合もあるかもしれない。場合によっては戸数等を表記しているのではないかと考える。
- ・ 防災はソフト対策がとても重要だと考える。マニュアルを作っただけではなく、実際に訓練をしておかないとスムーズに動けないので、日頃から自治体や自治組織ごとに訓練などをやっていくことをどこかに書いていただければと思う。
- ・ 取組施策のスケジュールについて、ソフト対策も思っている以上に時間がかかる。5年じゃ終わらないと思うので10年ぐらいに伸ばしても良いと考える。特に防災教育や、コミュニティの防災力の強化はずっとやり続けなくてはいけない施策である。
- ・ 今回の熊本地震でも揺れとずれがあったということをぜひ覚えておいてほしい。耐震設計の建物は揺れに対しては結構設計はされているが、ずれに対して設計がされてない物が結構ある。橋梁などがずれるのは、断層がずれるのでそれに対して追従できないという現象がよく見られる。断層型の地震の時は、横揺れだけではなく、ずれということを考えておかないと大変なことになる。

(4) 第7章(定量的な目標値と評価方法)

(事務局より説明)

【委員からの主な意見等】

- ・ 公共交通に関する目標について、公共交通の利用者数を目標にあげられているが、この目標値が公共交通ネットワークの構築と歩いて暮らせる、繋がりが続けられるまちづくりの推進を評価する指標として適切なのか。ネットワークを構築すると利用者数が増えるということもあると思うが、構築していなくても交通サービスを導入すると利用者数が増えるということもある。歩いて暮らせるも、歩道の整備率やカバー率などのアクセシビリティ指標もあるので検討いただきたい。
- ・ 目標達成により期待される効果について、効果指標の説明を明記していただきたい。また、「質の高い都市空間」については、回答者がうまくこちらの意味をくみ取れることができる質問項目を検討していただきたい。
- ・ 防災に関する目標は、ハードに関することと、ソフトに関することなど2つあれば良いと思う。例えば、訓練に参加してるのかとか、あるいは避難のマニュアルなどを読んだことあるのかなど、そういったソフト的なことも聞いていただけるとありがたい。

- ・ 何か一つの指標で全ての目標を評価することは、非常に厳しいと思われるので、複数個の KPI があった方が良いと思われる。また、総合計画の中にもおそらく同じような KPI がいくつか設定されているはずである。総合計画の中で、特段この立地適正化計画で必要となる KPI は何なのか、関係性をクリアにされた方が良い。

3. 都市計画マスタープランについて

(1) 第2次都市計画マスタープランの期間延長について

(事務局より説明)

【委員からの主な意見等】

なし

以上